

目次

第1章 都市計画マスタープランの目的と役割	1
------------------------------------	---

第2章 上越市の現状と課題	2
----------------------------	---

第3章 全体構想	3
1. まちづくりの将来像	3
2. まちづくりの基本方針	4
3. まちづくりの分野別方針	5
1 土地利用の方針	5
2 拠点の方針	6
3 都市施設(道路・公共交通)の方針	7
4 都市施設(公園・緑地、河川・下水道、その他施設)の方針	9
5 都市環境の方針	9
6 景観形成・保全の方針	10
7 都市防災の方針	10

第4章 地域別構想	11
1. 地域別構想の構成	11
2. 地域別方針	12
1 上越地域 (1)直江津周辺地域	13
(2)春日山周辺地域	16
(3)高田周辺地域	19
(4)上越妙高駅周辺地域	22
(5)上越西部中山間地域	25
(6)上越東部田園地域	28
(7)大潟・頸城(西部)地域	31
2 柿崎地域	34
3 中郷地域	37
4 頸城(東部)・吉川・三和地域	40
5 安塚・浦川原・大島地域	43
6 牧・板倉・清里地域	46
7 名立地域	49

第5章 実現化方策	53
1. 計画の実現に向けた取組	53
2. 計画の実現に向けた仕組み	59

第1章 都市計画マスタープランの目的と役割

1 都市計画マスタープランとは

- 都市計画マスタープランとは、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」です。
- おおむね20年後のまちの姿を見据えて、まちづくりの方針を示すものです。

策定のねらい

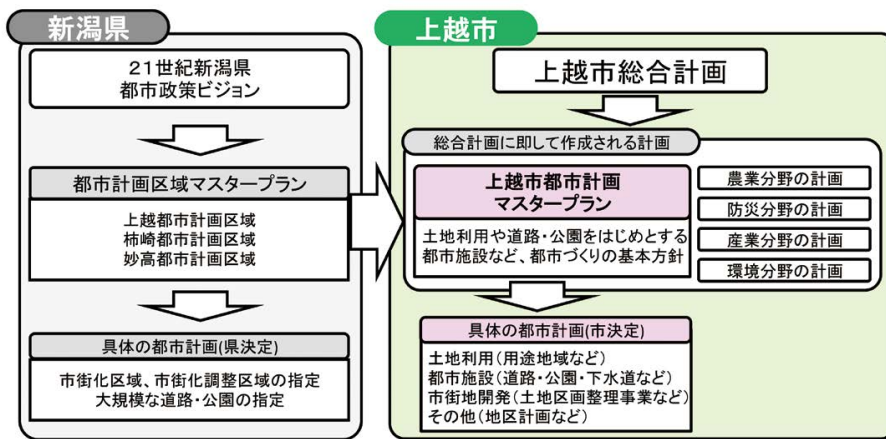
人口減少や少子高齢化など、社会経済情勢などの変化を踏まえ、上越市が目指す都市の将来像やまちづくりの方針を示すものです。

計画の目標年次

目標年次：平成46年度(2034年度)
(計画期間：平成27年度から平成46年度)
対 象：市域全体を対象とします。

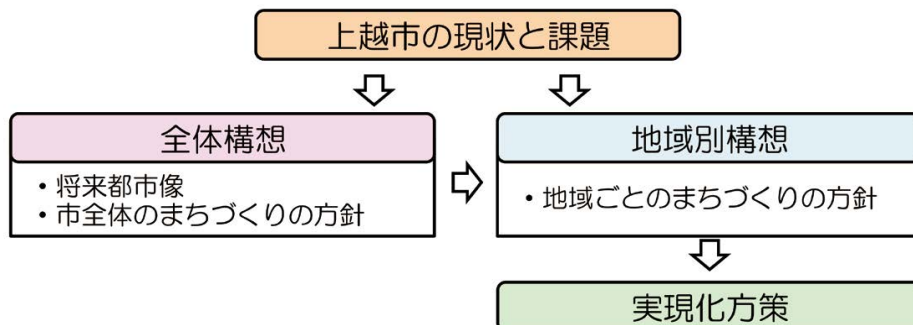
2 計画の位置づけと役割

- 都市計画マスタープランは、県が定める「都市計画区域マスタープラン」に即して定められます。
- また、市の総合計画に即して定められる計画の1つで、都市計画マスタープランに基づいて土地利用の規制・誘導や道路・公園をはじめとした都市施設などの個別計画が決定されます。



3 計画の構成

- 都市計画マスタープランは、現状と課題を踏まえ、市全体の将来都市像やまちづくりの方針を示す「全体構想」、全体構想を踏まえ地域ごとのまちづくりの方針を示す「地域別構想」、将来都市像を実現するための進め方や手法などを示す「実現化方策」で構成されます。

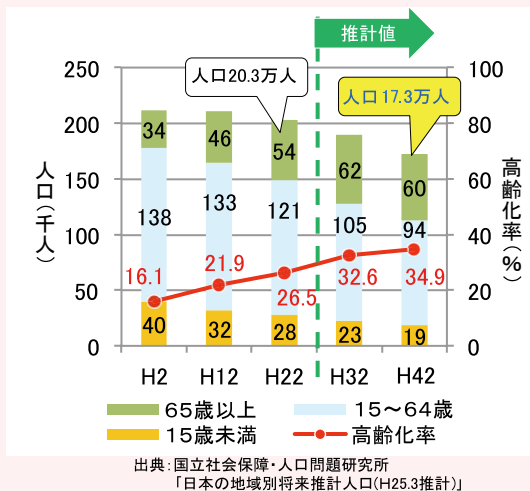


第2章 上越市の現状と課題

1 現状と課題

人口減少・少子高齢化

- 人口減少・少子高齢化が進行しています。
- 働き盛り世代・子育て世代が住み続けることができる生活の場の確保が必要です。
- 高齢者にとって安心して暮らし続けられる生活環境が必要です。



土地利用

※DID地区:人口密度の高い地区で1km²あたり4,000人以上が居住する地域

DID地区※の変遷

	人口密度 (人/km ²)	面積 (人/km ²)
平成2年	4,105	17.6
平成22年	減少	増加
平成22年	3,647	22.9

●市街地

- 低密度な市街地の形成が進行しています。
- ⇒ 市街地の適正な規模の維持が必要です。

●田園地域

- 農業就業者や耕作面積の減少が進み、農業環境の悪化が懸念されます。
- ⇒ 良好な営農・自然環境の保全が必要です。



●中山間地域

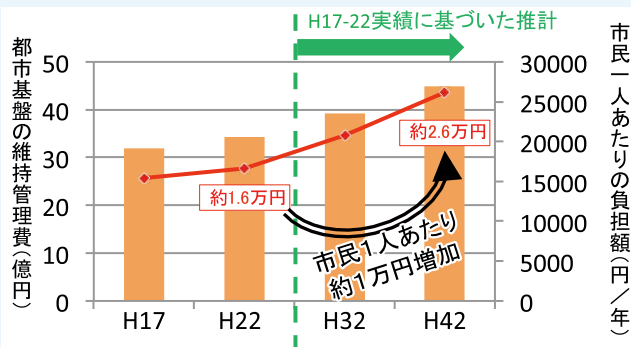
- 人口減少や高齢化の進行が著しい状況にあります。
- ⇒ 豊かな自然環境の保全や、集落機能の維持が必要です。



都市基盤の維持管理費

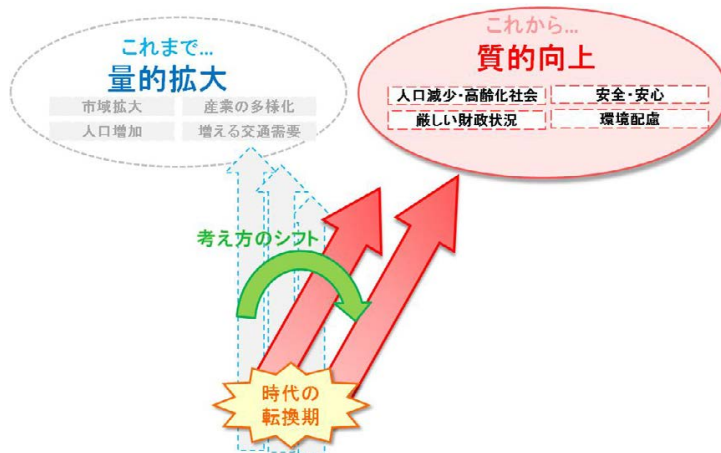
- 道路や公園などの都市基盤の維持管理費は増加傾向にあります。
- 人口減少・少子高齢化が進む中、現在の都市基盤を維持していく場合、市民1人あたりの負担額は増加します。

※都市基盤の維持管理費:道路維持費、橋梁維持費、除雪費、公園管理費、河川管理費の合計



2 まちづくりの方向転換

- これまでは人口増加や産業の多様化など右肩あがりの社会経済情勢を踏まえ「量的拡大」のまちづくりに取り組んできました。
- 今後は現状と課題を踏まえ、「量的拡大」から「質的向上」にまちづくりの考え方の転換を図り、市民が日常生活の中で満足感・充足感をもって暮らすことができる、持続可能な社会を目指す必要があります。



第3章 全体構想

1. まちづくりの将来像

1 将来都市像

すこやかなまち ～人と地域が輝く上越～

- 『すこやかなまち』とは、現在そして将来の市民一人ひとりが、人や地域などとの間に良好な関係性を築き、生涯を送る上で不可欠となる安定的な生活基盤が確保していることはもとより、心の豊かさが満たされ快適で充実した「すこやかな暮らし」を送る条件を備えたまちです。

2 将来都市構造

《将来都市像実現のための都市構造》

快適で充実した都市(生活)空間を形成し、
各拠点が相互に連携した持続可能な都市構造

快適で充実した都市(生活)空間を形成

- 将来にわたり、市民が安全・安心に、快適で充実した暮らしを営めるよう、生活サービス施設や交流の場が確保された都市(生活)空間を形成します。
⇒『**めりはりのある土地利用**』
⇒『**暮らしを支える拠点**』の構築

各拠点が相互に連携

- 都市・生活機能を拠点と拠点、拠点と地区内の集落間で補いあいます。
- 広域交通網の充実により、市内外の交流を促し、市全域に波及させます。
⇒**人や物の移動を支える**
『**交通ネットワーク**』

持続可能な都市構造

- 将来にわたり、市民が快適で充実した暮らしを続けられるまちの構造

面

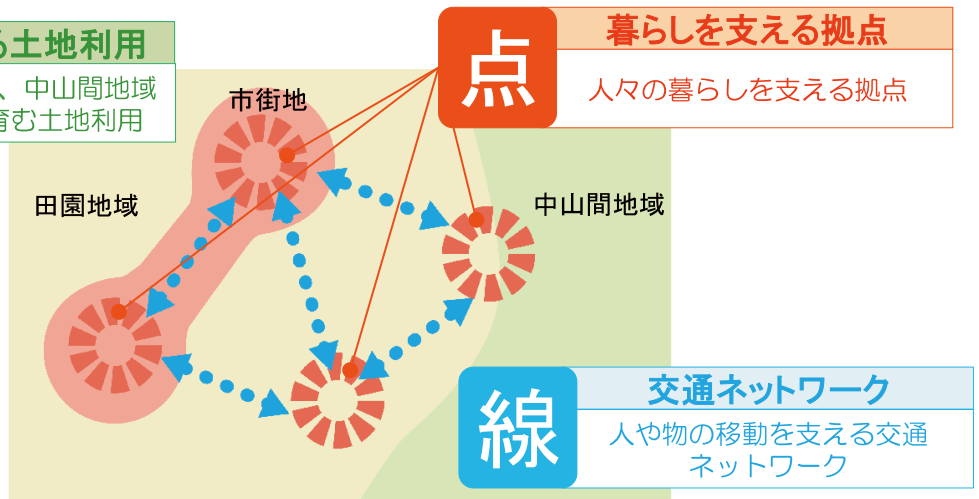
めりはりのある土地利用

市街地、田園地域、中山間地域の特性をいかし育む土地利用

点

暮らしを支える拠点

人々の暮らしを支える拠点



2. まちづくりの基本方針

1. 活力あふれるまちづくりの推進

- 上越地域の交通の要衝にふさわしい快適で充実したまちづくりを推進します。
- 都市基盤の効率的・効果的な整備や維持管理を促進し、住み続けられる環境の形成を目指します。
- 既存の産業基盤を活用しながら地域の雇用や産業規模の維持を目指します。

2. 拠点のネットワークを強化するまちづくりの推進

- 市内の円滑かつ安全・安心な交通環境の維持・形成を進めます。
- 地域間交流を促進させ、総合力の高いまちを目指します。
- 雪国の特性に配慮する交通ネットワークの形成を推進します。

3. 豊かな田園・自然と共生するまちづくりの推進

- 良好な景観と農業生産の維持を推進します。
- 自然環境と調和した生活や生産機能を確保します。
- 環境にやさしいまちづくりを目指します。
- 「雪」を本市の強みとし、克雪・利雪・親雪に取り組みます。

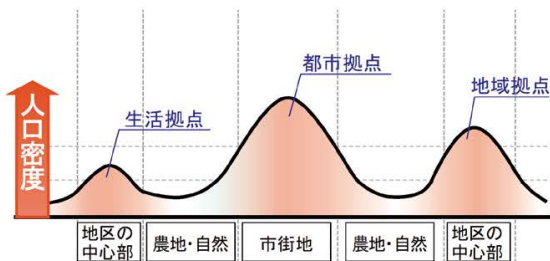
4. 災害に強いまちづくりの推進

- 官民連携により災害に強いまちづくりを目指します。
- 市民が安全・安心に暮らし続けられるまちづくりを推進します。

長期的視点に立った拠点への人口集束のイメージ

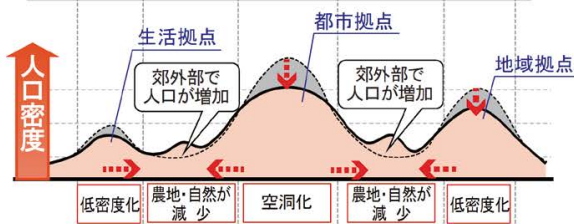
- 市民が居住地を選択できるようにしながら緩やかに集束を図ります。
- 人口減少・高齢化により都市の規模が現実的に小さくなることから、緩やかに集束し、一定の居住性が見られる地域を中心的エリアとして位置づけます。

現在（H26年5月） 人口200,768人 ※住民基本台帳



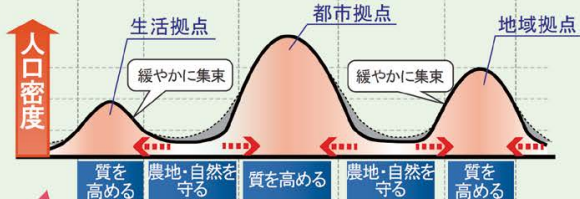
将来（H37年） 人口182,008人 現在から約1.9万人減少

拠点で人口が減少します。



当面は…（H37年） 人口182,008人 現在から約1.9万人減少

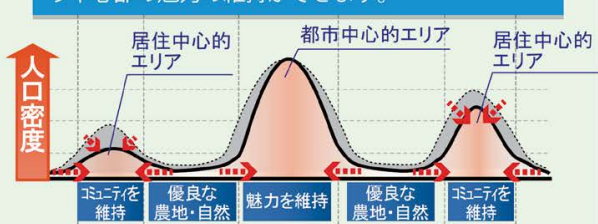
人口集積地の維持を目標として、拠点の質を高め、農地・自然を守ることで、拠点への人口集束を図ります。



約10年後

将来は…（H47年） 人口164,892人 現在から約3.6万人減少

将来にわたって、コミュニティや、あらゆる機能が揃う中心部の魅力の維持ができます。



全国的な人口減に伴い、人口集積地の規模は小さくなりますが、地域コミュニティは存在しています。

※中心的エリアとは：現時点では、20年後に拠点を維持できるか見通せないため現在の拠点を中心的エリアとして表現している

3. まちづくりの分野別方針

面

1 土地利用の方針

- 多様な都市機能や優良な農地、豊かな自然を有するエリアそれぞれの特性をいかし、育む「めりはりのある土地利用」を推進します。

市街地

- 市街地は、暮らしや産業を支える都市機能が集積し、上越市全体の都市的な活動を支える役割を担います。
- 社会経済情勢の変化などを踏まえ、市街地の適正な規模を維持する土地利用を推進します。
- 市街地に「住居系土地利用」、「商業系土地利用」、「工業系土地利用」のそれぞれの土地利用を適正かつ計画的に配置・誘導しながら、誰もが快適に暮らし続けられる市街地の形成に取り組みます。
- 住居系・商業系・工業系の土地利用の変化や、住民・事業者ニーズを見極めながら土地利用を進めるとともに、市街地内で十分に活用されていない土地の解消に努めます。

住居系土地利用



商業系土地利用



工業系土地利用



田園地域

- 田園地域は、優良農地が多く存在し、稲作を中心とした農業生産地域としての役割を担います。
- 無秩序な開発を抑制するとともに、優良な農地や自然、農村部の住環境・景観を保全しつつ、地域の活力を維持するため、適正な土地利用を誘導します。

集落



農地



身近な自然地



中山間地域

- 中山間地域は、自然環境や景観、水源かん養などの様々な公益的機能を担います。
- 自然環境や景観を保全するとともに、公益的機能を維持するため、森林の適切な管理と農地の保全に加え、関連施策と連携しながら人や地域の支え合いなどにより、都市計画の面から中山間地域の暮らしを支援します。
- 集落は、自然環境と調和した里山らしい住環境を形成します。

集落



農地







守るべき自然地



点

2 拠点の方針

- 各地区の拠点の機能に応じ「暮らしを支える拠点」を構築します。

都市拠点	<p>直江津駅、春日山駅、高田駅周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都市的ライフスタイルが可能な居住環境や上越市の経済発展の原動力となる都市機能の集積を図るとともに、市内外からの交通アクセス性を高め、多様な人々が集まり、交流や連携が生まれるにぎわいのある拠点を目指します。 	
地域拠点	<p>柿崎区、大潟区、浦川原区、板倉区の中心的エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活に必要な機能に加え、周辺的生活拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、人々や団体が集まり、交流や連携が生まれる拠点を目指します。 	
生活拠点	<p>安塚区、大島区、牧区、頸城区、吉川区、中郷区、清里区、三和区、名立区の中心的エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活に必要な機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、人々や団体が集まり、交流や連携が生まれる拠点を目指します。 	
ゲートウェイ	<p>上越妙高駅周辺、直江津港周辺、上越インターチェンジ周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広域交通が結節し、市内から市外へ、市外から市内への広域的な人や物の移動の玄関口としての特性をいかした機能の集積を促進します。 ● 上越魚沼地域振興快速道路の整備促進により、関東・魚沼方面からの玄関口となることが予定される寺インターチェンジ周辺については、道路整備の進捗状況を踏まえ、ゲートウェイとしての位置づけを視野に、ふさわしい機能の整備・誘導を検討します。 	

都市機能と拠点が備える機能の例

- 都市機能とは…
都市機能とは、商業、業務、教育、文化、交流、行政など、都市的なサービスを提供する機能です。
- 拠点が備える機能の例

	機能の例
都市拠点が有する機能	洋服などの買回品を購入する店、大型商業施設または商業施設の集積、総合病院または医療機関の集積、図書館、文化施設、ビジネスホテル、コンベンション施設など
<div style="background-color: #f08080; padding: 5px;">地域拠点が有する機能</div>	スーパー・ホームセンター、金融機関、福祉施設、体育施設など
<div style="background-color: #f08080; padding: 5px;">生活拠点が有する機能 (日常生活に必要な機能)</div>	生鮮食料品などの最寄品を購入する店、行政窓口、郵便局、農協、コミュニティ施設、保育所、小・中学校、医療機関、公共交通など

※機能は例示であり、拠点の立地や周辺地域の人口、周辺の拠点が有する機能などの状況により異なります。




3 都市施設(道路・公共交通)の方針

線

- 総合的な交通ネットワークを確保・形成し、生活利便性の向上を図ります。

道路の方針

- 災害時の迅速かつ円滑な対応を支えるため、道路整備による安全・安心な道路ネットワークの確保や、積雪時の移動空間の確保に取り組みます。
- 既存の道路を有効に活用するため、今後の財政見通しを踏まえて、道路の維持管理・更新を図ります。
- 社会情勢や交通需要の変化に対応するため、未着手の都市計画道路については、必要性や実現性などの見直しの検討を進めます。

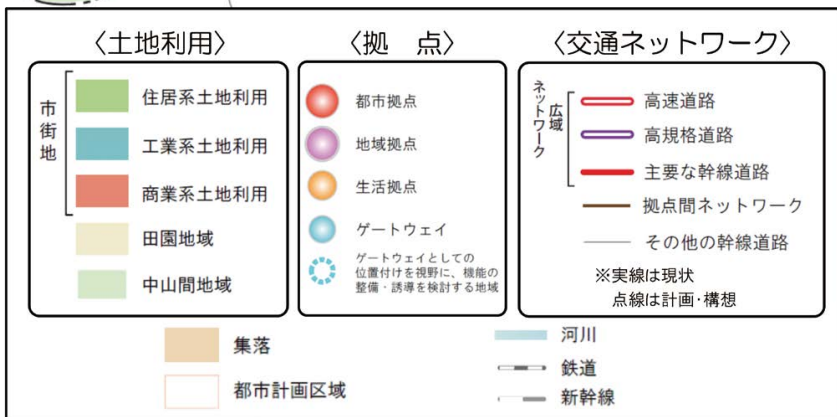
<p>広域ネットワーク</p> <p>広域的な移動を支える道路</p>	<p>上越魚沼地域振興快速道路の整備促進や上信越自動車道の全線4車線化の早期完成を働きかけます。</p> 
<p>拠点間ネットワーク</p> <p>拠点間を結ぶ道路</p>	<p>日常生活や経済活動、災害時の避難・救助活動を支えるネットワークの形成を促進します。</p> 
<p>地区内ネットワーク</p> <p>身近な生活道路</p>	<p>緊急性や必要性を踏まえた中で、整備効果の高い道路を優先的に整備します。</p> 

公共交通の方針

- 道路整備と公共交通の確保・充実により、総合的な交通ネットワークの確保・形成を目指します。
- 地域の実情に即し、効率的で利便性が高く、環境負荷の低い公共交通体系の構築を目指します。



注) 地区内ネットワークは図示していません。



4 都市施設(公園・緑地、河川・下水道、その他施設)の方針

- 公園・緑地は、市民の生活環境の向上や安全・安心な暮らしの実現に向けて計画的な整備・維持管理を図ります。
- 河川は治水機能の向上と浸水被害の軽減に向けて、国や県による河川改修の促進を働きかけるとともに、雨水排水対策を強化し、安全・安心な都市基盤整備を図ります。
- 下水道は、快適な生活環境の形成に向けて、地域に合った污水处理施設の計画的な整備・維持管理を図ります。
- ごみ処理施設などその他施設は、老朽化や環境負荷低減への対応、ユニバーサルデザインの普及などのニーズを踏まえ、適正な配置や維持管理を図ります。

公園・緑地

- ・市民ニーズを踏まえた特色ある公園・緑地の整備や維持管理を進めます。
- ・防犯に配慮した安全な公園づくりに努めるとともに、災害時の避難場所や防災拠点となる防災公園などの整備について検討します。



高田公園(高田周辺地域)



海浜公園(直江津周辺地域)

河川・下水道

- ・河川の氾濫や浸水などの水害から市民生活を守るため、国や県による河川改修の促進を働きかけるとともに、雨水幹線の整備などにより、雨水排水対策の強化に努めます。
- ・污水处理施設の整備により未普及地域の早期解消を目指し、生活環境の改善、公衆衛生の向上及び公共用水域の水質保全を図ります。
- ・終末処理場や管路施設の老朽化対策として、長寿命化計画を策定し、計画的な修繕、更新に取り組みます。



関川
高田河川国道事務所提供



上越市下水道センター
(春日山周辺地域)

その他施設

- ・ごみ焼却場など都市計画施設については、施設の長寿命化と計画的な維持管理・更新に努めます。
- ・小・中学校をはじめとした公共施設については、施設の老朽化や地域間バランスを踏まえた適正な配置に加え、効果・効率性を重視した改築・耐震化などの維持管理・更新を図ります。
- ・社会経済情勢の変化や市民ニーズに応じて、環境配慮型施設への転換やユニバーサルデザインの普及を図ります。



上越市クリーンセンター
(上越東部田園地域)



春日新田小学校
(直江津周辺地域)

5 都市環境の方針

- 地球環境にやさしいまちの形成と快適な生活・自然環境の形成の実現に向けて、多様な主体との協働により取り組みます。

地球環境にやさしいまちの形成

- ・環境負荷の低い効率的な都市構造を目指します。
- ・エネルギーの効率化、有効利用を目指します。



風力発電
(名立地域)



メガソーラー
(上越西部中山間地域)

快適な生活・自然環境の形成

- ・快適な生活環境と豊かな自然環境が共生するまちを目指します。



地域の海岸清掃活動
(直江津周辺地域)



柿崎川ダム周辺の
自然観察活動(柿崎地域)

環境保全に向けた多様な主体の協働

- ・市と市民・事業者との役割分担の下で協働による取組を推進します。

6 景観形成・保全の方針

- 美しい景観を守り育てていくため、「上越市景観計画」や「環境色彩ガイドライン」を定め、市民・事業者と協力しながら景観の形成・保全に取り組んでおり、今後も保全・活用すべき景観資産を市民と共有し、上越市らしい特色ある景観の形成・保全を図ります。

地域特性に応じた景観形成・保全の方針

- 上越市では地域ごとに特徴ある景観資源を有しています。
- 今後も地域の個性を引き立たせることができるような景観の形成・保全を図ります。



建築物の基調色と調和のとれた住宅地
(春日山周辺地域)



地域資源のはさ木
(上越東部田園地域)



棚田での田植え風景
(安塚・浦川原・大島地域)

市を代表する景観形成・保全の方針

- 上越市を代表する歴史・雪国文化を象徴する景観や山並みなど、「魅力ある景観」を醸成し、次の世代に引き継ぐため、市民とともに景観の形成・保全を図ります。



高田の雁木(高田周辺地域)



雪山と桜の遠景(中郷地域)



夕日の沈む日本海
(名立地域)

7 都市防災の方針

- 東日本大震災の教訓を踏まえ、都市基盤整備により災害を未然に防ぐ「防災」対策に加え、人命の保護を最優先し、被害を最小限に抑える「減災」の視点から、ソフト対策とハード対策を組み合わせ、市民の安全・安心な暮らしを確保するまちを目指します。

「防災」まちづくり

- 災害による被害の発生を未然に防止するため、土地利用やライフライン施設などの様々な側面から「防災」まちづくりに取り組みます。
- 市の特徴である雪と上手に付き合うことができるよう、雪に強いまちづくりに取り組みます。
- 市民の日常生活を支える、安全・安心な住まいの形成に取り組めます。

イメージ：ハード整備 **公助**



地すべり
(牧・板倉・清里地域)



一斉排雪の様子

「減災」まちづくり

- 人命の保護を最優先し、被害を最小限に抑える「減災」の視点から、避難路や避難施設などの活用や市民・関係機関との連携に向けたソフト対策を推進します。
- 災害時においては「自助」「共助」の取組が不可欠となることから、市民一人ひとりが防災に対して正しい知識や災害対応能力を持てるよう、市民への意識啓発などを図ることで地域の防災活動を促進します。

イメージ：ハードの活用・ソフト対策 **自助・共助**



総合防災訓練の様子



津波・洪水ハザードマップ
防災ガイドブック・避難所マップ

第4章 地域別構想

1. 地域別構想の構成

- 地域別構想では、地域の概要や現状・課題を踏まえて本地域が担う役割、地域づくりの方針を示します。

第1章 序論

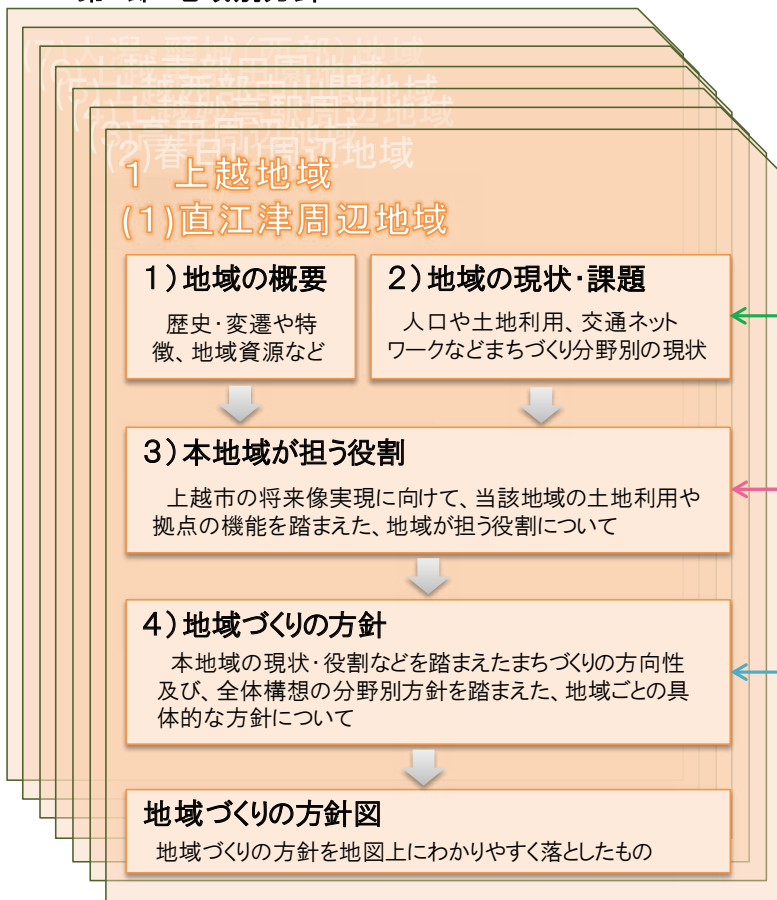
第2章 上越市の現状と課題

第3章 全体構想

- 第1節 まちづくりの将来像
- 第2節 まちづくりの基本方針
- 第3節 まちづくりの分野別方針

第4章 地域別構想

- 第1節 地域別構想の構成
- 第2節 地域別方針



上越市の現状と課題について、地域毎により具体的に整理します

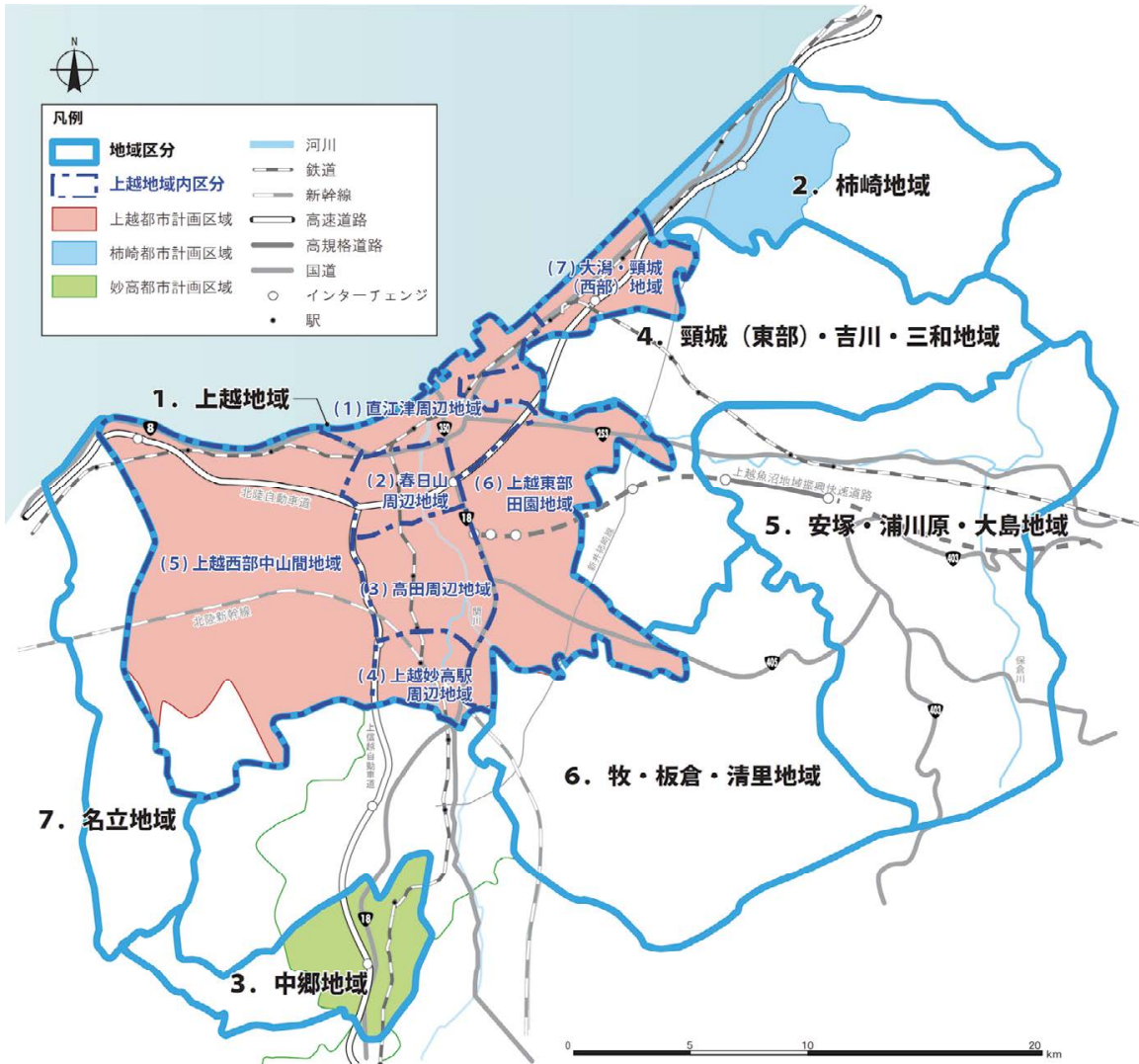
上越市が目指すまちづくりの実現に向けて、当該地域が担う役割を具体的に示します

まちづくりの分野別方針について地域の特徴ごとに具体的に示します

全体構想と地域別構想の関係

2. 地域別方針

- 地域の区分は、都市計画区域の指定の有無を基本とし、地形や土地利用の状況などを踏まえて7つの地域に区分しています。
- このうち、上越地域については、主要な鉄道駅周辺の市街地のまとまりを基本として更に7つの地域に区分し、地域の特性を踏まえた地域づくりの方針を示します。



地域区分

線引き都市計画区域

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 上越地域 | |
| (1)直江津周辺地域 | (5)上越西部中山間地域 |
| (2)春日山周辺地域 | (6)上越東部田園地域 |
| (3)高田周辺地域 | (7)大潟・頸城(西部)地域 |
| (4)上越妙高駅周辺地域 | |

非線引き都市計画区域

- | | |
|---------|---------|
| 2. 柿崎地域 | 3. 中郷地域 |
|---------|---------|

都市計画区域外

- | |
|-------------------|
| 4. 頸城(東部)・吉川・三和地域 |
| 5. 安塚・浦川原・大島地域 |
| 6. 牧・板倉・清里地域 |
| 7. 名立地域 |

1 上越地域 (1)直江津周辺地域

1) 地域の概要

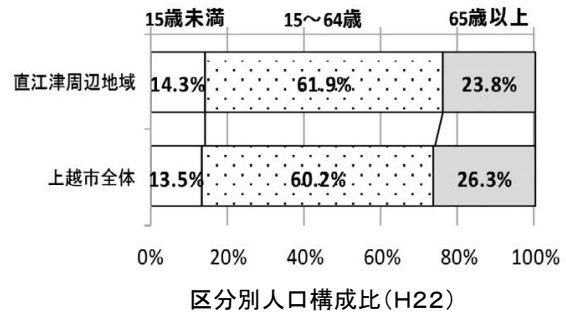
《位置》

●直江津周辺地域は、上越都市計画区域の北部に位置し、北側に日本海、西側に中山間地域が広がる地域です。地域の中心部で一級河川の関川、保倉川が合流し、その周辺に広がる平坦地に市街地が形成されています。

《都市計画上の位置づけ》

●直江津周辺地域は、線引き都市計画区域※となっており、直江津港、直江津駅、五智公園などを含む地域の大部分が市街化区域に、森林が広がる地域西側の一部及び農地が広がる地域南側の一部が市街化調整区域になっています。

※線引き都市計画区域：無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるため、市街化区域と市街化調整区域に区分している都市計画区域



出典：国勢調査に基づき集計

2) 地域の現状と課題

- 商業、工業、観光、文化などの多様な都市機能が集積する地の利をいかすとともに、都市機能が利用しやすい魅力的な居住の場を提供するなど、暮らしやすい居住環境及び都市機能の維持・形成に取り組む必要があります。
- 北陸自動車道や一般国道8号などの幹線道路、信越本線や妙高はねうまライン・日本海ひすいラインなどの鉄道、直江津港を起点とする航路などが結節する交通の要衝として、地域の日常生活や産業活動を支え、本地域と他地域との交流・移動を支える必要があります。
- 日本海に面し、一級河川の関川、保倉川の河口付近に市街地が広がる本地域では、洪水や津波に伴う浸水被害、沿岸部における海岸浸食などの課題に対応し、安全・安心なまちづくりに取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『商業、工業、観光、文化、居住、交通などの多様な機能を有する地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

- めりはりのある土地利用や都市拠点の形成、新水族博物館の整備に合わせた公園などの整備により、公共施設や商業施設、工業団地、観光・文化施設、居住などの機能の維持・集積を目指します。
- 交通の要衝としての役割を引き続き担うため、幹線道路の整備促進や必要な生活道路の整備、公共交通ネットワークの確保などにより、交通結節点としての機能の維持・集積を目指します。
- 河川の適正な維持管理、津波避難誘導看板の設置やハザードマップなどによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。

1 地域資源

- 直江津周辺地域は、交通の要衝として古くから栄えた歴史文化のまちであり、親鸞聖人上陸の地と言われる居多ヶ浜、上杉謙信が再興した五智国分寺などの様々な名所があります。
- 直江津港は、上越市と佐渡市を結ぶ小木直江津航路が運航されており、広域観光の玄関口となっています。また、韓国・中国への外貿定期コンテナ航路を有する重要港湾であるとともに、LNG火力発電所やLNG基地が操業するなどエネルギー拠点でもあります。上越沖日本海のメタンハイドレートの存在は、直江津港のエネルギー拠点としての重要性を一層高めることが期待されています。
- また、化学や金属関係の大手製造業が立地し、関連企業を含め、市内経済を支えています。
- 本地域には、なおえつ海水浴場や水族博物館などの観光資源があります。



中部電力株式会社提供

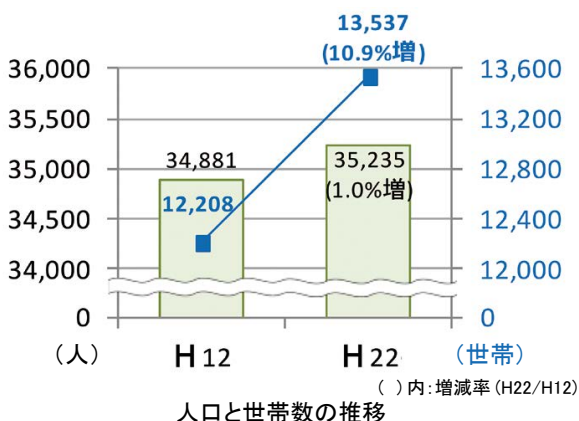
直江津港周辺
中部電力株式会社提供



水族博物館

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに増加傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも低く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも高い状況になっています。



()内：増減率 (H22/H12)

人口と世帯数の推移

1 めりはりのある土地利用の推進

住居系

- 住宅を主とする低層低密な住宅地では、閑静でゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。
- 幹線道路の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 一般国道8号などの主要幹線道路の沿道では、身近な利便施設や良好な住環境が共存できる市街地環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 直江津駅周辺では、中高層住宅の誘導やオープンスペースの確保などにより、様々な都市機能をいかした利便性の高い住宅地の形成に向けた土地利用を推進します。

市街地

工業系

- 工業集積地では、交通の要衝に位置する充実した環境をいかして、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- 直江津港周辺では、エネルギー港湾としての特徴をいかしつつ、物流拠点としての利便性を高め、物流やエネルギー関連企業、製造業などの集積を促進します。
- 流通業務地においては、北陸自動車道、一般国道8号、直江津港、直江津駅などに近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適正に支援します。

商業系

- 直江津駅周辺の商業集積地では、上越地域全体の商業圏域を支える集客性の高い商業施設や観光・交流施設などの集積を誘導します。
- 生活利便商業集積地では、隣接する住宅地の生活環境との調和を図りつつ、日常生活に必要な小規模な日用品店舗などの立地を誘導します。

中三浦地域

農地自然

- 市街化調整区域においては、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を目指します。

集落

- 都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

全地域

- 地域住民が身近に親むことができる様々な自然資源や観光・文化資源の活用などにより、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

2 拠点の形成 直江津駅周辺

- 生活の利便性を向上させるため、既存の都市機能の適正な維持・更新に加え、商業、交流施設などの多様な機能の立地を図ります。
- 歴史を感じさせるまちなみや景観、新水族博物館などの新たな地域資源の活用を図り、市内外との人の交流を促進します。
- 当地域の多様な機能を維持するため、関係分野との連携により空き店舗の利用促進や地域活動の支援などのソフト政策を展開し、商業活性化や居住環境の向上を支援します。

3 道路ネットワークの確保

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所への改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

都市計画道路

- 直江津港から関東、北陸、長野方面に連絡する広域的な環状道路の形成や直江津港、新潟県南部産業団地などへの円滑な物流を確保するため、都市計画道路黒井藤野新田線の整備促進に引き続き努めます。
- 長期にわたって未着手となっている都市計画道路は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- 市民の日常生活を支え、市内外の人々の交流を促進するため、拠点間を結ぶ路線バスの維持や重複する交通網の再編成などにより、市内外の人たちが利用しやすい鉄道やバスの地域公共交通網の形成を図り、維持していきます。

鉄道

- 利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。
- 直江津駅では、妙高はねうまラインと日本海ひすいライン、信越本線及びほくほく線への乗り換えがスムーズに行えるよう、ダイヤの設定や発着ホームへの配慮を働きかけます。
- 上越妙高駅と市内各地を結ぶため、信越本線、ほくほく線への直通運転及び黒井駅停車の維持・増便や、上越妙高駅と直江津港を結ぶ公共交通の確保を働きかけます。

5 新水族博物館の整備に合わせた公園、駐車場などの整備

- 市内外との人の交流を促進する機能の充実を図るため、新水族博物館の整備を推進するとともに、公園、駐車場など周辺施設の整備を検討します。

6 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

下水道

- 生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道（汚水・雨水）の整備を推進します。

浸水対策

- 国・県により管理される一級河川の関川、保倉川、戸野目川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。

津波対策

- 津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップなどによる周知活動を図ります。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

海岸浸食対策

- 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

7 都市環境の保全

公害防止

- 産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。

緑地空間

- 環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。

砂防林

- 海岸部特有の飛砂による被害の防止に向けて、関係分野と連携しながら松林などの飛砂防備保安林の保全・維持管理を推進します。

地域づくりの方針図(直江津周辺地域)

